

● 街づくり市民会議なかがみ定期総会 特別講演



▲坂本健二さん

講演内容：「ドイツと日本の違い あれこれ」

講演者：サッカー指導者としてドイツ滞在歴 16 年 坂本健二 氏

主なプロフィール

資格：機械設計者 準学士・サッカー指導者 ドイツサッカー協会認定 B+ライセンス

・翻訳家、通訳者 ドイツ語技能検定 準1級、ゲーティンスティテュート レベル B2

所属クラブ：・SV Werder Bremen（ブンデスリーガ）・SV Heimstetten（4 部リーグ「Regionalliga Bayern」）

現役時代の所属クラブ：山雅サッカークラブ（北信越リーグ（3 部リーグ） 1985 年優勝、現松本山雅フットボールクラブ）

今回の講演では、ドイツと日本の違いを分かりやすく、日常的な観点からお話頂きました。

講演の一部を、ご紹介いたします。

- ① 日本人は気質として、監督不在でも何となく、サッカー競技が成立するように歩調を合わせることができるようです。しかしドイツでは、個々の意見がバラバラで、それぞれの主張がぶつかってしまい、指導を専門とする監督の存在無しでは成り立たないのが通常ということです。サッカーにおいては遠慮のない 100%の動きが、監督の采配で最大限生かされるのです。

様子を見て「なあなあ」で動く日本人よりも強いということも理解できます。海外で多くの日本人がプレーする時代ですから、その考え方が少しずつ改善されて来たようです。その様な観点から、監督がとても大事な役割を果たしていると力説され、坂本氏は、日本サッカーの今後は、海外から実績のある監督を獲得することが、日本を強くする原動力になると語られていました。

- ② ドイツの飲み会では、自分の前にビールが運ばれて来たら、乾杯なしで皆に行きわたることなく飲み始めるのが当たり前ということです。日本人の常識では考えられない情景です。

ドイツの乾杯は、誰かがきっかけでいきなり始まり、どのタイミングで乾杯するのか分からない。日本人は全員集合してそれぞれ所定の位置に着き、乾杯の挨拶をして、やっとのこと呑めるというのが我々の常識的な習慣（形式）だと思います。

- ③ ドイツのショップでは店員さんがお客さんに対して「こんにちは」と挨拶したら、お客さんもためらいなく挨拶を返します。個人主義の国として考えると意外な感じがします。日本ではそれほど、店員さんにしっかりと挨拶までしない感覚です。日本人は店員さんが接客として挨拶しており、客の立場としてはなんとなくですが人見知り、あるいは立場の仕切り線、客の方が偉いという意識があるのかも知れません。

坂本氏は日本に帰ってきて、店員さんに挨拶されても、ドイツにいたときのような挨拶は、空気感が違い、素直にできないと話されていました。



- ④ ドイツといえばビールです。地域によって提供の仕方の違いがあります。バイエルン州にあるヘレスというビールは、日本でいうラガーです。ヴァイツェンは小麦で作ったビールで、白濁しているビールです。いずれも 500ml です。

ケルンのケルシュやデュッセルドルフのアルトは少し小さめのグラス(200 ml)で提供され、こまめに飲み終え常にフレッシュなものをもたらる形式です。このように地方によって違いがありますが、ビール好きならドイツはどこに行ってもごきげんです。

広報部から一言 坂本氏は、ご自身を半分ドイツ人だと語られていました。現在、ネットショップを経営され、ドイツから優れたアイテムの輸入販売をしています。「ドイツの優れもの」で検索して下さい。

「あきしま街づくり市民会議なかがみ」ホームページでは、特別講演ダイジェスト動画をご覧いただけます。

（取材・写真 / 広報部会 幡垣 誠）